

2016. 7. 7 (木)

「早く見つけた人が偉い」わけではない

鈴木 謙 介

私たちはみな奴隷である

今日は、「真理はあなたたちを自由にする」という、社会学部の聖句についてのお話をしようと思います。

もうすぐ春学期も終わりですが、特に1年生の人たちはこの3カ月はどうでしたか。

大学に入る前に抱いていた大学に対する期待と比べて、それ以上だったという人もいるでしょうし、期待はずれだったという人もいるかもしれません。思っていた以上に忙しかったという人もいれば、つまらなかったという人もいるかもしれません。ただ多くの人が共通して感じていると思いますけれど、大学って、思っていた以上に、待っているだけでは何も起きない感じがしませんか。

今日、話したいのは、大学生活の中で「真理」を見つけることについてです。入学式で必ずこの言葉を聞いたと思いますけれども、真理と聞いてもパッと思い浮かばない、あるいは心の心理のことかと思った人もいるのではないかと思います。まして「真理があなたたちを自由にする」と聞かされても、何のことか分からないと思った人がいるかもしれません。

実は聖書にも全く同じことが書いてあります。先ほど打樋先生が読まれた句に続いて、

このように書いてあります。ヨハネによる福音書8章33節、「すると、彼らは言った。私たちはアブラハムの子孫です。今まで誰かの奴隷になったことはありません。あなたたちは自由になると、どうして言われるのですか」。

同じ気持ちの人が多くと思います。自分は高校までの生活を振り返っても十分に自由だし、これ以上、勉強したからといって何か自由になる感じはあまりないと思った人は結構いるのではないかと思います。

でも、例えば春学期が終わりに近づいて、レポートや試験の準備をしている人が多いと思いますけれども、僕たちは大学に通っている限りにおいて単位の奴隷ですね。単位から自由になることもできませんし、卒業までの仕組みから自由になることもありません。

あるいは、アルバイトをしている人がたくさんいると思いますけれども、アルバイトをしてお金を稼がないと何もできないと思うと、僕たちはお金の奴隷でもあります。

また、卒業したら就職して企業で働きたいと思っている人が多いと思います。そのプロセスの中には就職活動がありますね。就職活動をしなければ企業に採用されないことはわかっている、何をすればいいのかわからない、就活対策は何をすればいいのかわからない

い、インターンには行かなければいけないのか、そもそも自分に向いている仕事はあるのか、不安になることが多すぎてもう何も考えたくないから、できる限り、そのようなことから目を背けておきたいという人もいます。実は、僕たちは大学生活において、就職活動の奴隷なのかもしれません。

もっと身近な話で言うと、この夏どこかに遊びに行こうと思って、友達のグループLINEに遊びの計画に投稿したけれども、既読はついていないのに誰からも返事が返ってこないというときに、もしかしたら、友情の奴隷になっているのかもしれません。

そのように考えてみると、いろいろなところで僕たちは不自由をしていますか。でも、そのように強いられている不自由に対して、多分、それは当たり前なこと、仕方ないこと、みんながやっていること、よくあることだと思っているのではないのでしょうか。

自分で選ぶことが自由である

実は真理という言葉は聖書に書かれる前からある言葉で、ギリシャ哲学の中では真理のことを「アレーティア」と言います。アレーティアとは、何も隠されていない状態のことを言います。

つまり、真理に目覚めるといのは、これは当たり前なのだ、これは仕方がないのだと思っている、真理が隠された状態から、そうではないのだ、他の可能性もあり得るのだということを知って、それらを自分の手で選べるようになること、つまり、物事が隠されていない状態を生きられるようになることだと言えます。

ものすごく卑近な例でいうと、僕は野菜が

苦手ですけれども、この中にも野菜が嫌いな人がいると思います。子どもの頃に、親にニンジンも残さずに食べなさいと言われて、嫌だと思いながらもニンジンを食べるという経験をした人も多いと思います。

ニンジンを食べさせられるというのは不自由な経験です。でも、ニンジンを栄養として取らないと病気になったり、イライラしやすくなったりするという知識を得ると、ニンジンは嫌いだけれども、野菜は食べなければいけないと分かってきます。

ここからがポイントで、野菜を食べなければいけない、でも、食べたくないといったときに、ニンジンなんか食べなくていいと言われてもらえるのも自由ですけれども、生野菜では食べるのはしんどいから、例えば、シチューに入れてみよう、野菜ジュースに入れてみよう、いろいろなやり方で、取らなければいけないニンジンを自分の自由として選んで摂取することができるという自由もあるはずなんです。

自由というのは、誰からも強制されずに自分のしたくないことはしなくていいということではなく、隠されていた真理を知って、自分の手でこれならばと思うものを選ぶことができるようになって初めて得られるような、そういうものでもあるんです。

だから、単位の取り方、アルバイトでお金を稼ぐ方法、就職活動を経て会社に入るプロセス、友達とのコミュニケーション、そうした一つひとつのことも、それを成立させている仕組みに気が付くと、違う見方ができるようになるかもしれません。そして社会学部には、そのようなことを教えている授業がいっぱいあります。

逆に、大学では勉強するのが当たり前なん

だから授業に出てノートを取ってあげればいいのかとか、逆に、卒業がかかっているから、親にお金を出してもらったから嫌だけど勉強しないとイケないとか、そういう「自分で選んだ」とは言えない受身の姿勢では、本当に自由な生き方をするとはできない。最初に言った「大学では自分から動き出さないと何も起こらない」というのは、そもそも大学という場所じたいが、主体的な選択を求めているものであることが背景にあるんですね。

大学時代の経験から

じゃあその「自分から動き出す」って、どうすればいいんでしょう。自分の経験を振り返って話しますと、まさに「これが当たり前」、「このようにするのが普通」というものではないものを求めて、懸命にもがいていた大学時代だったと思います。

僕は、高校の頃からバンドと演劇をやっていたんですが、劇作家の鴻上尚史が「大学というものは行かずに何をすることが大事なのだ」と言っていたので、そうなのかと真に受けて、取りあえず、授業に出るより面白いことをたくさんしようと思いました。東京の大学に通っていたので、いろいろな所に顔を出して、大学に入って上京して1年目で、とある劇団のプロデュース講演をやらせてもらえることになり、バンドも活動も始めました。

ところが演劇は人間関係がうまくいかに挫折します。バンドもいろいろやっているうちにプロミュージシャンの人と知り合いになって、その人たちのお手伝いやステージに上げてもらう経験をしましたけれども、これもやってみるとプロの人たちに囲まれて、無理

だ、自分には音楽の才能がないんだということに気が付いてしまったんですね。

勉強について言うと、学部では、社会学部だと島村先生がやられているフォークロアという学問をやっていましたが、大学の途中で社会学という学問に興味が出てきて、面白いから大学院に行って勉強しようと思い、1週間に6つぐらい、他大の授業に潜っていました。そこでいろいろな大学の、自分より偏差値の高い人たちと話をしていると、社会学も独学ですから知識量ではかなわないし、僕よりも英語ができますし、そもそも言っている言葉の意味が分かりませんでした。東大生としゃべっていたときに、「君はその現象に対してアイデンティファイしているのか」と言われて、「アイデンティファイってどういう意味だろう？」という状態で、全然コミュニケーションができませんでした。

そうやって振り返ってみると、いろいろなことに手を出していたせいで、早くからこれでいくと決めていた人と比べると、どれを取っても中途半端なことしかできなかった大学時代だったと思います。では、それで無駄だったのかというと、そんなことはないと思うんですね。

大学の内外でいろいろなものに手を出して、あれも駄目、これを駄目という経験を経てみて、確かに多くの時間を無駄にしたと思いますけれども、ひとつ気付いたことがあります。それは何かというと、どのような業界であっても、ここではこのようにしていればいいと思い込んで真理から目を背ける人と、その常識の中で安住せずに、隠された何か他にでもあるのではないかと考えて探求を続ける人がいて、生き残っているのは後者の人だ

ということです。

そのように考えてみると、みんなの周りにも大学生活に対して似たようなスタンスでいる人はいません。大学生のうちに遊んでおかなければという感じで、華やかにいろいろな集まりに顔を出して、友達も多そうの人、あるいは、逆に早くから将来を見据えて、学生団体に所属して目立つ活動をして、高い目標を目指す仲間を見つけて、この夏も大きなイベントをやるなんて決意表明している人です。

そのような人を SNS で見たり、タグ付けされたりするのを見ると、僕たちはつつい心がささくれて、「リア充自慢かよ」なんて思ってしまうがちですよ。その実、何も見つけていない、何もしていない自分には価値がないのではないかと思ってしまう気がちもあるんじゃないでしょうか。

でも、もしかするとそういう人たちだって、自分の周囲にいる「もっと輝いている人たち」や、「既に成果を出している人たち」に対して劣等感を覚えていて、ただ焦っているだけかもしれません。そうするとこの人たちも「大学時代には何かを見つけて必死にならなければ」という考え方の奴隷であって、決して自由ではないということに気づきます。

もちろん、自分が夢中になれることを早くに決めてすごく頑張っていれば、その方向で伸びることはありますし、何かが見つかることもあります。大学という場合は、そのような意味で、座っているだけ、受け身では何も見つかりませんし、いろいろなことにチャレンジしてみることも悪くないところだと思います。

でも、何かを見つけた、あるいは、そこに

向かって一直線に頑張っていくことだけが、必ずしもいいとは限らないと思います。もっと言うと、何も見つけていない、何も始めていない自分に対して、もう始めている人が偉いということは絶対にありません。どの段階で始めようと、どの段階でたどり着こうと、その人がたどり着いた所がゴールなのであり、その人が始めたときがスタートでしかないと思います。

ありのままの自分として

ギリシャの哲学者、アリストテレスは『ニコマコス倫理学』という本の中で、真実な人（アウレーテウティコス）とは、本来の自分以上に自分を盛ることもせず、また自分の本来の姿以下に自分を卑下することもせず、あるがままの状態でいられる人のことだと言っています。真理に近い人というのは、ありのままの自分でいられる人のことなんです。

もちろん自分に正直でいることも、素直でいることじたいも大事ですけども、では、ありのままにいるためには何が必要でしょうか。何かを学ぶということについて言うと、マタイによる福音書の7の3にこのように書かれています。「あなたは兄弟の目にあるおがくずは見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気付かないのか。兄弟に向かって、あなたの目からおがくずを取らせてくださいと、どうして言えようか、自分の目に丸太があるのではないか。偽善者よ、まず自分の目から丸太を取り除け。そうすれば、はっきり見えるようになって、兄弟の目からおがくずを取り除くことができる」と。

大学の学びの中では、何か「これ」という

ものを見つけて、一生懸命、そこに向けて走っていくこと以上に、この言葉のようなことが求められているのではないのでしょうか。つまり、自分の目の中に大きい丸太があるときに、その丸太が入っている状態で、これだ、仕方がないのだ、これで間違いがないんだと思い込んで自分の目から一度、それを取り払って、この世界が本当はどのような形をしているのかを知るといことです。それを知った先に初めて自由があるのではないのでしょうか。

聞いたことがあると思いますけれども、マタイの福音書は続けてこのように書いてあります。「求めなさい。そうすれば与えられる。探しなさい。そうすれば見つかる。門をたたきなさい。そうすれば開かれる。誰でも求める者は受け、探す者は見つけ、門をたたく者には開かれる」。

みなさんが大学生活で探そうとしているものが、自分の将来を決めるたった1つの門である必要はきつとありません。大学では、たくさんの扉がみなさんの前に用意されています。それらの一つひとつをノックして、違ったら引き返してというのを繰り返して、その中にもしかすると、「これだ」という扉が見つかるかもしれませんが、大学を卒業するまでに何も見つからずに、また扉をたたき続ける人生が始まるかもしれません。

大事なものは、扉をたたき続ける人生を選ぶことができるかどうかです。社会学部にはたくさんのカリキュラムや学びが用意されてい

て、多くの先生がいる中で学びを追求し、そして、その結果として自由を得ていくこと、それが真理に近づくことなのではないのでしょうか。

特に1年生の皆さんに、この夏から秋にかけて考えてほしいことは、来年の春学期に始まるゼミ選択のことです。そこで残りの大学生活の方向付けや学びの方向性が決まることになっています。ただし、もう一回、言います。それを早くに決めて、そこに向けて走れる人だけが偉いわけではありません。たくさん扉が用意されていますから、その扉をできるだけたくさん叩いて、たくさん引き返して、たくさん後悔した上で、これだったと思える大学生活の残り時間を過ごすてもらえればいいと思っています。

「真理はあなたたちを自由にする」といったときに、まだ自分は自由になっていないと思うのであれば、もっと探求すればいいと思います。この人たちは自由ぶっているけれども、自由ではないと思う人がいても、もしかすると、そんな自分の目の中に大きな丸太があるかもしれません。まずは、自分が自分を必要以上に盛ることも、卑下することもない真実な人になれるような大学生活を送ってもらいたいと思います。

春学期も残り短いですが、この夏も元気に過ごして、また秋学期に授業で会えればいいと思っています。どうもありがとうございました。

(社会学部准教授)